山口喜三太
陶芸展

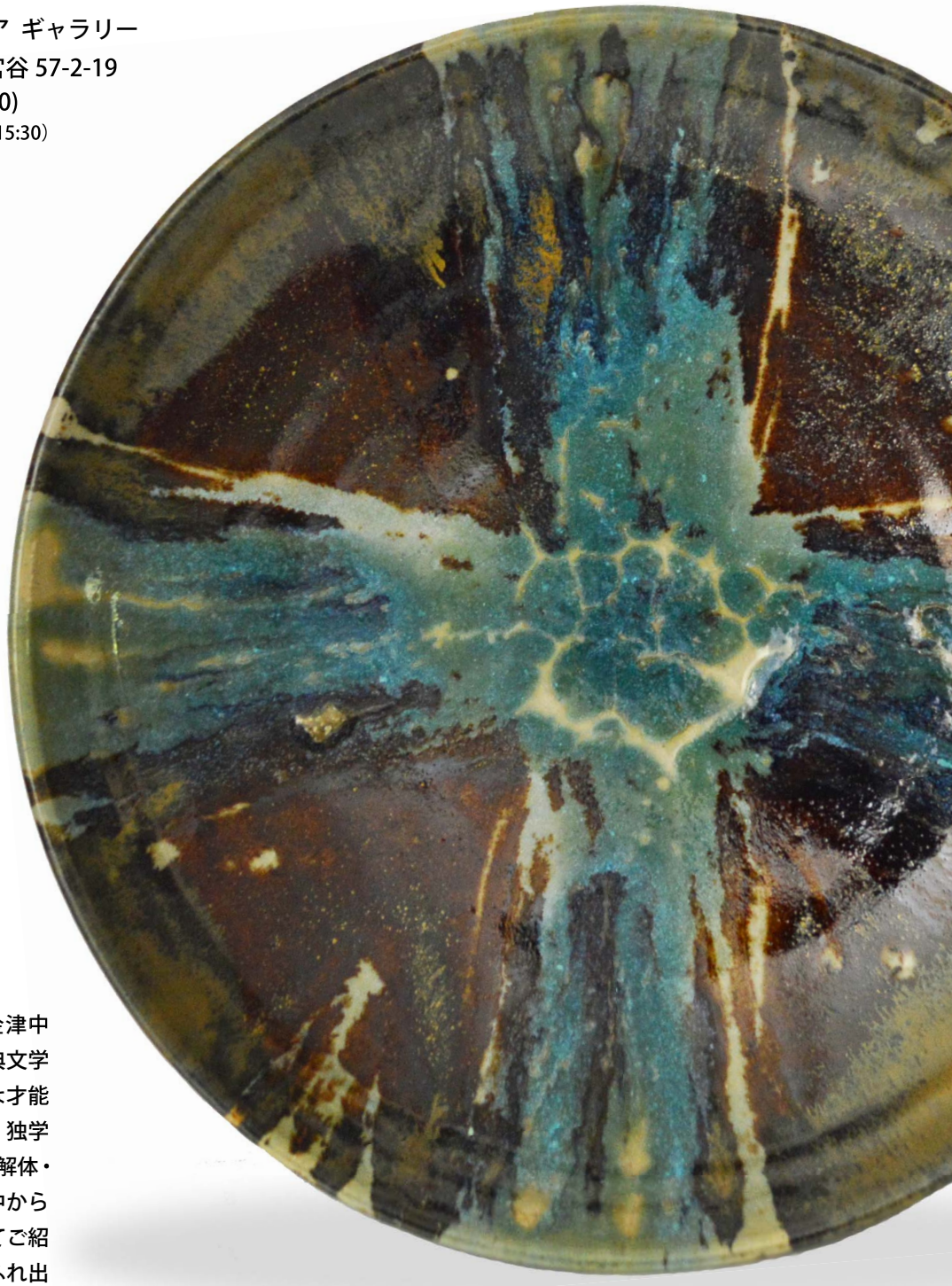
Kisata Yamaguchi Ceramics Exhibition

[会期]
2017年9月27日(水)－10月1日(日)

[会場] 金津創作の森 アートコア ギャラリー
〒919-0806 福井県あわら市宮谷 57-2-19

[時間] 10:00 ～ 17:00 (最終入場 16:30)
※1日(日)は 16:00 まで(最終入場 15:30)

[入場無料]



山口 喜三太 (1913－1996)
福井県坂井郡長畝村(現坂井市)出身。金津中学校校長在任中、同校校歌の作詞や、古典文学や古文書の研究に勤しむなど、その多彩な才能で地域の文化振興に貢献。教職引退後は、独学で作陶に没頭する。この度、氏のアトリエ解体・閉窯に伴い、遺品として残された作品の中から選りすぐった作品約 50 点を回顧展としてご紹介します。精根込めた作り手の人柄があふれ出る作品の数々を、ぜひご覧 ください。

鉄釉十字掛け分け尺一大皿(部分)
1975 年頃 H 7× 直径約 33 (cm)

主催 / 山口喜三太陶芸展実行委員会　共催 / (公財) 金津創作の森財団　後援 / あわら市、あわら市教育委員会

金津中学校　校歌

山口喜三太 詞
石桁真礼生 曲

雲ひかる越のやまやま
蒼空はにおいあふれて
天地に正気かがよう
大いなりゆるがぬ力
　このふる里にわれら生まれ
　この学舎にわれら育つ

風わたる竹田の岸べ
歌声は窓にひびきて
若き日の夢を語らう
ゆたかなりみなぎる力
　このふる里をわれらひらき
　この学舎をわれらつくる

乙女子よ男の子よわれら
ともしびを高くかかげよ
ひとすじの道こそあゆめ
知と愛とたけきこころに
　このふる里をわれらたたえ
　この学舎をわれら仰ぐ

作詞者のことば

英知と生気にみちたヒューマニストに

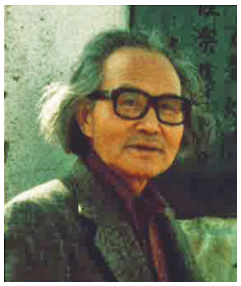
金津中学校の校庭から望む白山山系のやまやまは、一年を通してまことに美しい。殊に屋上の広場から眺める銀嶺は、気品高く清浄そのもので、加越両県に根をおろすゆるぎない偉容、そこに発する正大の気は、ここに住む者の心に人間としての正しい意気、おおらかで清純な気風を育てずにはおかない。

この清明の地に、文化の殿堂中学校校舎を築かれた郷土の人々の理想、希いをうかがうことができる。

竹田川は水こそ濁ってはきたが、緑の影うつす流れは幼い頃の思い出をいっぱいに秘めた、なつかしいふる里の川である。浦安の朱の橋桁は流れにゆらぎ、堤防のみどり、校庭の花花は、学ぶ生徒に安らぎと生長への意欲をわきたたせてくれる。若者の歌声は窓に流れて瑞々しい生気に充ちている。まことに若さあふれる学びの庭、人生道場にふさわしい環境である。

未来のいっぱいに開けている生徒達は、この清明の地に金中生としての誇りと自信をもって、手をとり肩組み合って前進するにちがいない。希くは、この天地にみなぎる正大の気を胸いっぱいにふくらませて、英知と生気にみちたヒューマニストに育ってもらいたい。そのみなぎる力を自己錬成に、そしてやがて社会に捧げてもらいたい。

昭和 43 年 3 月 25 日

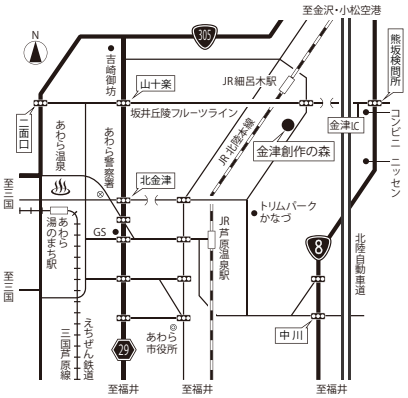


山口　喜三太
Kisata Yamaguchi

1913（大正　2）年	福井県坂井郡長畝村（現坂井市丸岡町長畝）生まれ。
1937（昭和 12）年	福井県師範学校専攻科（現福井大学）卒業
	坂井郡内各地の小・中学校において教鞭を執る。
1942（昭和 17）年	金津町国民学校　（現金津小学校）（～ 1944 年）
1948（昭和 23）年	金津小学校　　（～ 1954 年）
1966（昭和 41）年	金津小学校 校長（～ 1967 年）
1967（昭和 42）年	金津中学校 校長（～ 1972 年）
1968（昭和 43）年	金津中学校校歌を作詞（公募入選）
1970（昭和 45）年	福井県教育功労者賞受賞
1972（昭和 47）年～	教職引退後、金津町教育委員、金津町勤労青年センター初代館長、金津町中央公民館館長、金津町文化財保護委員、金津町立図書館館長などを歴任する。自宅の庭に窯場を作り、独学で作陶をはじめ精根を尽くす。（～ 1980 年頃まで）
1975（昭和 50）年	県美展県工芸作家協会賞受賞（昭和 50 年、52 年、53 年受賞）
1976（昭和 51）年	県美展福井市教育委員会賞受賞
1986（昭和 61）年	「かなづ石摺研究会」第 4 回 野の花文化賞受賞
1996（平成　8）年	8 月 25 日永眠（享年 83 歳）

【アクセスマップ】

＊北陸自動車道金津ＩＣから車で 5 分
＊ＪＲ芦原温泉駅からタクシーで約 10 分



● 問合せ
山口喜三太陶芸展実行委員会
〒919-0814
福井県あわら市青ノ木 44-15
陶彩窯 大森正人　TEL.0776-73-5040